

第2回外部識者検討会 議事メモ (2024/8/5)

参加者

外部識者委員

大崎 洋 氏 一般社団法 mother ha.ha 代表理事、吉本興業ホールディングス株式会社元会長
久米 信行 氏 株式会社久米繊維工業取締役相談役 (当会理事)
武井 涼子 氏 フェリス女子大教授、ヤンマー取締役 (当会理事)
原 正隆 氏 元NHK伝統芸能部チーフディレクター
齋木 彩染 氏 彩佑流 宗家、高校校総合文化祭参加チーム指導者 (六本木高校)

当会

沼崎 富 会長
徳田 寿風 副会長
早淵 鯉将 副会長 (オンライン参加)
池内 賢二 専務理事
鈴木 吟亮 理事

大崎様よりご紹介

島口 哲朗 氏 (海外で日本文化紹介をしている方)
前田 三郎 氏 (株式会社キョードーファクトリー代表取締役社長・武道館に詳しい方)

●池内専務理事より今回の趣旨説明

- ・1回目を踏まえて中身を詰めてきたい
- ・事業課へ向けた段取り (予算も含め、具体的なものに落とし込んでいく)
- ・武道館大会～復活～

(鈴木)

- ・武道館は吟剣詩舞にとっての聖地であり、50年間続けてきた「魂」そのもの
- ・吟剣詩舞人口の減少により、武道館大会への集客が課題
- ・成功のために考えうる3つの方向性

- ①強烈なプル (芸能人の出演によるファンの動員)
- ②強烈なプッシュ (全都道府県へのノルマ、全員参加)
- ③「原点回帰」(大きい流派の動員力、舞台時間を割り振る)

<まとめ>

●武道館大会

集客について (4~5,000人の動員目標)

- ・集客のターゲットは市井にはいない
- ・芸能人などの客寄せパンダは有効ではない（お目当ての出番が終わると帰る）
- ・時間的な余裕がないので、今までのやり方を強烈にやることが、最も早くて確実
- ・余裕があったら新しい取り組みを加えていく
- ・遠方から東京に来る目的の一つとして、武道館+観光をセットに旅行代理店へ相談

内容について

- ・参加型にする（吟は見るものではなく、詠うもの）
- ・参加者が増えれば、それにともない参加者および関係者のチケット販売数も伸びる
- ・「原点回帰」というのであれば、各流派の先生が「吟剣詩舞振興会に入っていて良かった」「おかげで助かった」というようなものを打ち出していかないと「何かまた勝手なこと、変な新しいことをやっている」ということで、ますます振興会から、大きな流派が離れていくことになりかねない
- ・大きい流派に時間の枠を設ける
- ・8地区および47都道府県連に枠を設ける
- ・映像を出した方がいい（47都道府県のご当地スライドショーなど）
- ・紅白で最後に「螢の光を」歌うのが恒例になっているように、最後にみんなで「これぞ吟詠の代表曲」というものを詠うことを恒例にしてみては
- ・大阪万博でも同日開催し、二次元中継を行う

会場について

- ・武道館の日程を押さえることができても、舞台作りの中途がたたず、開催できなくなった例もあるので注意
- ・本番前日の舞台の仕込時間の短縮と費用面でも抑えられるため、事前に武道館のスケジュールとイベンターをチェックし、前日に開催した公演の養生や舞台装置など、ある程度転用できるようお願いする（双方で利益あり）

●新規会員の獲得について

- ・実際の新規入会者の年齢や入会の経緯を調べ、ターゲット層を絞る必要がある
- ・若い方をターゲットにする場合、すでに価値観や趣向が固まっている20~30代は厳しい
- ・現実的には60~70代でセミリタイアした方や小中学生など両端の世代への働き掛け
- ・学校巡回公演の申請を出し、振興会が流派と学校を繋げてさしあげる

学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）

<https://www.kodomogeijutsu.go.jp/index.html>

- ・大きなホールをまわり、大会コンクールの開催についてアピールしておく
(公共のホールは、各地区の文化振興財団が管理している)
- ・公共のホールの場合、地域貢献を求められたりするので、詩吟を小中学生に教えたりなど何らかの貢献ができるかもしれない
- ・「誰か」や「何か」とコラボしたり、新しいことに挑戦する場合は、『変えてはいけないこと』と『変えていいところ』の塩梅を、流派のトップや一流の先生に見極めていただくことが重要 (ハードルの下げ方によっては芸術そのものが死んでしまう)
- ・ゲームやアニメーションのプロデューサーである広井王子 氏 (吉本興業)、光のアーティストである尾崎勝 氏 (mother ha.ha) が、来年2月・3月に市川海老蔵さんのステージを演出するが、そこでも『変えてはいけないこと』と『変えていいところ』があるはず
- ・そういった、伝統芸能と現代アーティストとのコラボの例なども『変えてはいけないこと』と『変えていいところ』を見定めるヒントになるかも
- ・振興会はあくまでも流派のサポートに徹すべき
- ・流派の方々に、真摯に考えていることが伝わらないと「振興会がまた勝手なことをやって」みたいに思われて終わってしまうのではないかと、何年間かこちらに携わらせていただいて一番危惧しているところ
- ・SNSなどでPRする場合、短い吟にダンスをつけられたら
- ・地元にちなんだ吟の大会 (総本山善通寺で行われる「後夜仏法僧鳥を聞く」のみを詠う大会) など、全国的にまだ知られていないもので、アピール力のある催しがあるはずなので、そういうものを洗い出す
- ・吟の魅力に対して興味を持っている方々をリサーチすべき
(そもそも、本当に吟に魅力を感じている人たちを固めきれていないのでは?)
- ・全国の観光協会と一緒に、PR映像などを作る時のBGMを詩吟に
- ・とにかく体験してもらう !

次回の開催予定

- ・日時：9月26日（木）13時～15時
- ・場所：一般社団法人 mother ha.ha 事務所
(東京都千代田区九段南四丁目3番4号 Polar九段)